

令和4年 10月3日	農作物病虫害発生予報 10月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
---------------	---------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	10
III	参考(予報の見方、気象予報)	11

I 予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	やや多	平年並	前年並
	ミカンハダニ	少	少	少
キャベツ	コナガ	平年並	平年並	前年並
イチゴ	うどんこ病	少	少	少
	アブラムシ類	やや多	やや多	多
	ハダニ類	平年並	平年並	少
野菜全般	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	前年並
	オオタバコガ	平年並	平年並	前年並
	シロイチモジヨトウ	多	多	多

お問い合わせ先

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

II 予報

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	前年並	台風の襲来前

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%(平年8.6%)、発病果率0.7%(平年0.7%)、発病度0.2(平年0.3)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、9月の降水量は平年並か多い(+)。

(3) 防除対策

<防除判断>

本病の発生が見られるほ場や、あまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の襲来前に薬剤防除を実施する。また、事前に防除ができなかった場合は、台風通過後、なるべく早期に防除する。

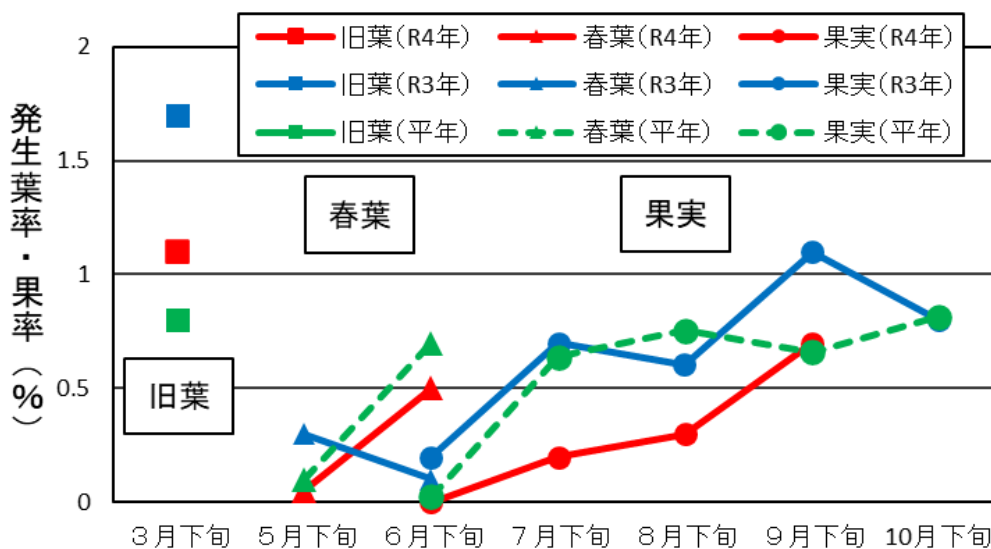
<耕種的防除等>

ア 秋に形成された病斑(潜伏病斑を含む)は翌年の有力な伝染源となるので、本病の発生しやすい夏秋梢はできるだけ除去する。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、枝葉や果実への感染を防ぐ。

<防除のポイント>

温州みかんなどかいよう病に比較的強い品種でも、伝染源が近くにある場合には多発することがあるので注意する。



カンキツかいよう病の発生推移

2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	少	雌成虫の寄生葉率30~40%以上、または、雌成虫1葉当たり0.5~1頭以上

(2) 予報の根拠

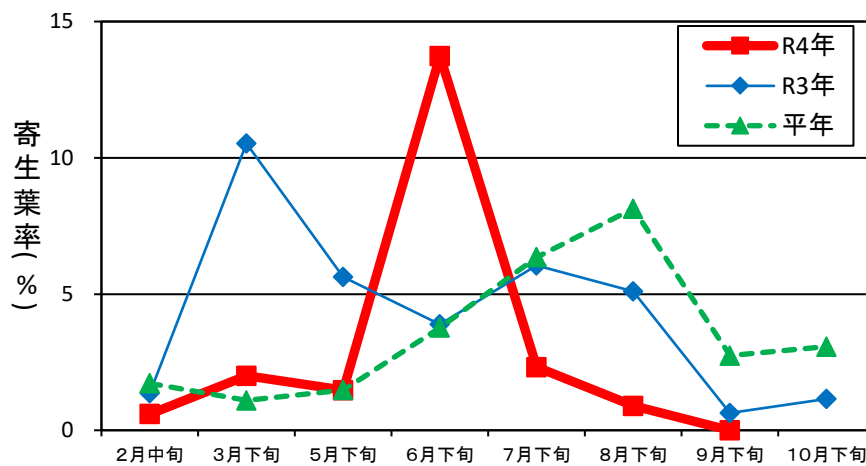
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年18.6%)、寄生葉率0% (平年2.7%) で平年に比べ少なかった (－)。

イ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量は平年並か多い (±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

こまめにほ場を見回り、発生状況に注意する。



ミカンハダニの発生推移

キャベツ

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

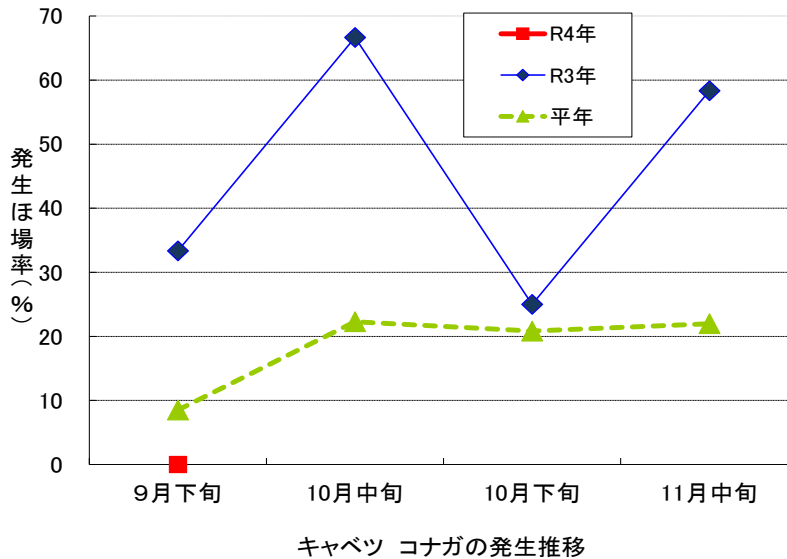
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年8.5%)、10株当たり虫数0頭 (平年0.0頭) で平年並みであった (±)。

イ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量は平年並か多い (±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	少	発病前または発病初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年9.5%）、発病株率0%（平年2.0%）、発病葉率0%（平年0.8%）で平年に比べ少なかった（－）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

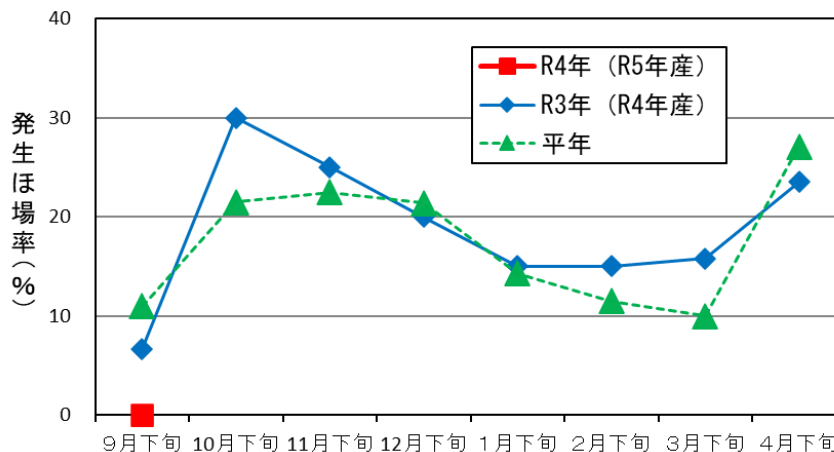
被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

<防除のポイント>

ア 本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ 予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去して丁寧に散布する。

ウ 薬剤耐性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移

2 アブラムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率23.1%（平年26.9%）、寄生株率9.1%（平年4.9%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 9月の黄色水盤トラップ（山口市大内）の誘殺数は、397頭（平年352頭）で平年に比べやや多かった（+）。

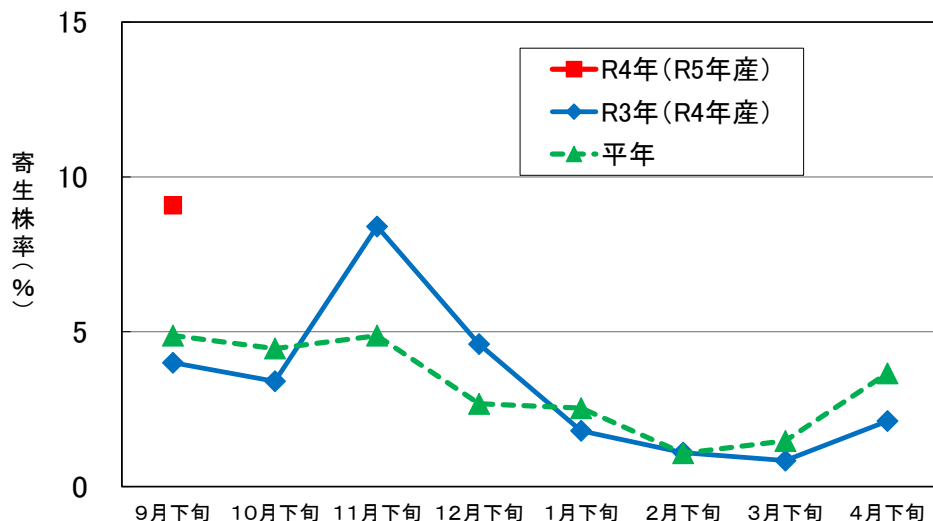
ウ 気象予報では、10月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴ アブラムシ類の発生推移

3 ハダニ類

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	発生初期

(2) 予報の根拠

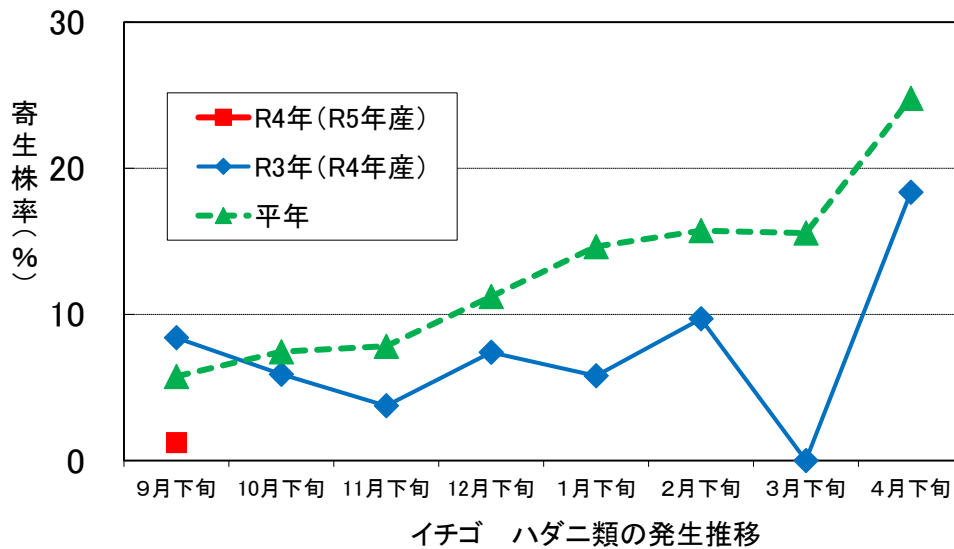
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率7.7%（平年20.7%）、寄生株率1.2%（平年5.8%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、10月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

- ア 薬剤散布を行う際には、不要な下葉を除去した後、葉の裏側に十分にかかるよう丁寧に散布する。
- イ ハダニ類の発生は、摘除した下葉を紙袋に入れて1日保管すると、ハダニ類が袋の上方に移動するため、容易に確認できる。
- ウ 化学農薬に対する抵抗性の発達が認められているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。
- エ 気門封鎖剤の多くは卵には効果がないため、7～10日後にもう一回散布する。
- オ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- カ 天敵（ミヤコカブリダニ）は次のことに注意して使用する。
 - (ア) ハダニの発生前または発生初期に放飼する。
 - (イ) すでにハダニが発生している場合は、天敵を放飼した後に、天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネ剤、ダニサラバ剤、スターマイト剤等）で防除する。
 - (ウ) 硫黄のくん煙は1日2時間程度とする。
- キ 開花期以降は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。



野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率30.0%（平年31.6%）、寄生株率1.2%（平年1.9%）で平年並みであった。また、イチゴでの発生ほ場率7.7%（平年13.6%）、寄生株率0.2%（平年0.4%）で平年並みであった（±）。

イ 9月のフェロモントラップ（山口市大内）の誘殺数は、1,549頭（平年3,459頭）で平年に比べやや少なかった（-）。

ウ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量は平年並か多い（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

地域により発生時期・発生量にばらつきがあるので、定期的にはほ場を観察し、必要に応じて防除を実施する。

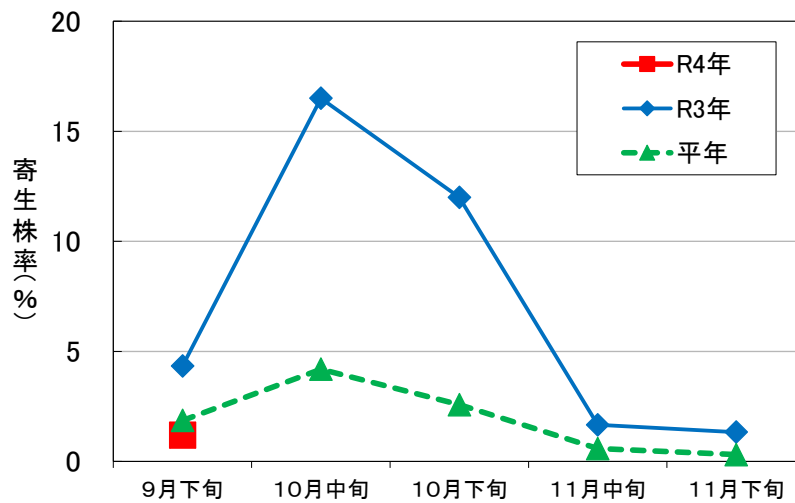
<防除のポイント>

ア 卵塊や集団で食害している若齢幼虫は、見つけ次第捕殺する。

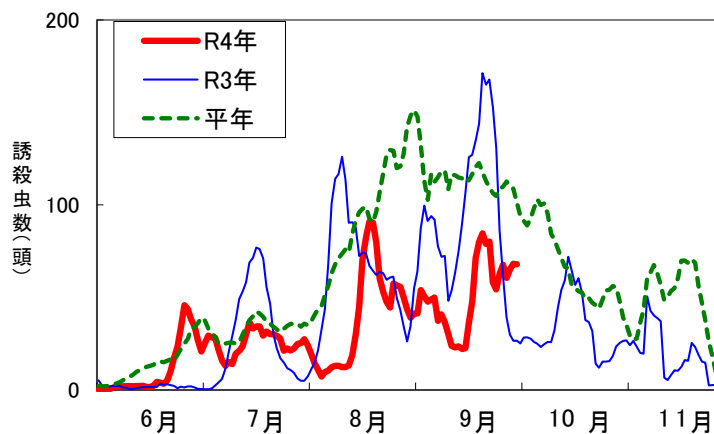
イ イチゴ等の施設栽培では、鉄骨パイプや天井ビニール等に黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つければ、直ちに捕殺する。

ウ 若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



キャベツ ハスモンヨトウの発生推移



ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数(山口市大内:移動平均)

2 オオタバコガ

令和4年7月4日付け令和4年度農作物病虫害発生予察注意報第3号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率0%（平年5.0%）、寄生株率0%（平年0.1%）で平年並みであった（±）。

イ 9月のフェロモントラップ（山口市大内）による誘殺数は、10頭（平年96.1頭）で平年に比べやや少なかった（-）。

ウ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量は平年並か多い（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

野菜の定植時期により発生時期が異なるため、ほ場の発生状況を確認する。

<耕種的防除等>

ア 幼虫は見つけ次第捕殺する。

イ 被害のあった新芽や蕾、果実等は早期に処分する。

ウ 施設栽培では、開口部に防虫ネット（目合い4mm以下）を設置し、成虫の侵入防止に努める。

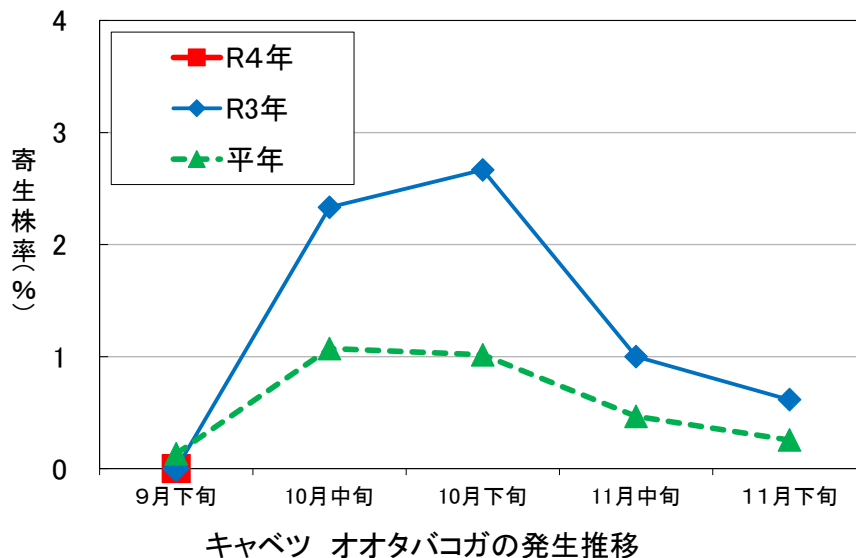
エ 黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、ほ場への侵入や作物への産卵を抑制できる。

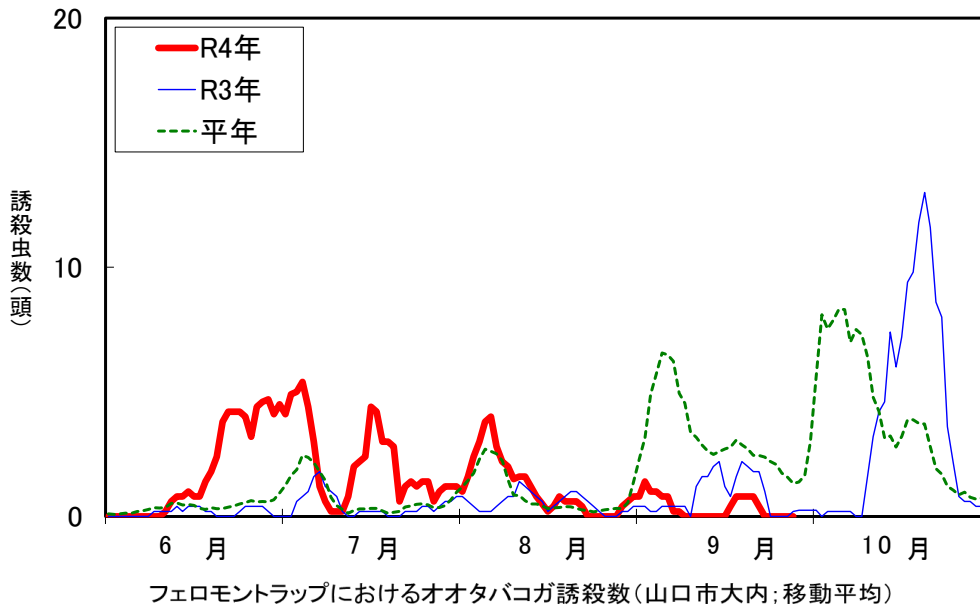
<防除のポイント>

ア 中～老齢幼虫は内部に潜入し、防除効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

イ 薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。





3 シロイチモジヨトウ

令和4年7月20日付け令和4年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22318.html>

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率30.0% (平年4.0%)、寄生株率0.8% (平年0.1%) で平年に比べ多かった (+)。

イ 9月のフェロモントラップ (山口市大内) の誘殺数は、37頭(平年69.5頭)で平年並みであった (±)。

ウ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量は平年並みか多い (±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 卵塊や被害部位は見つけ次第除去する。

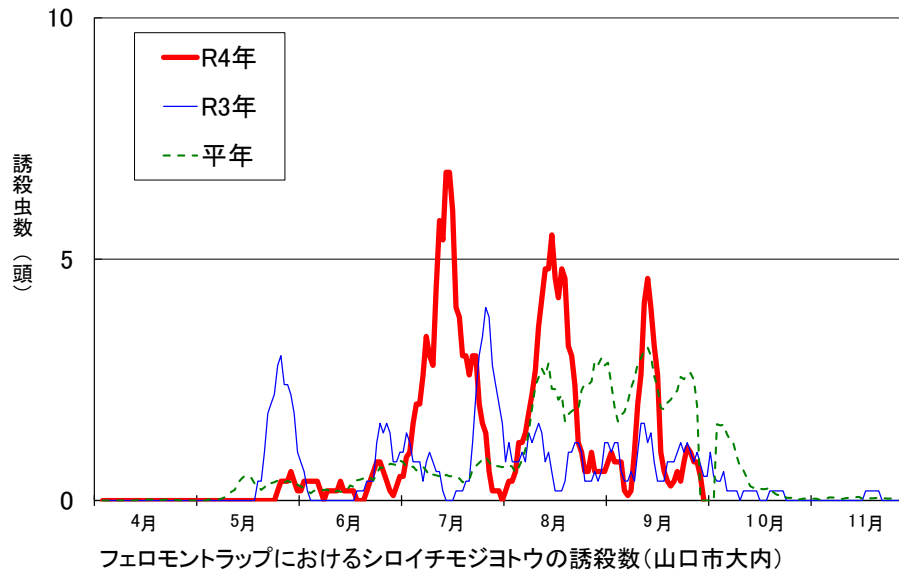
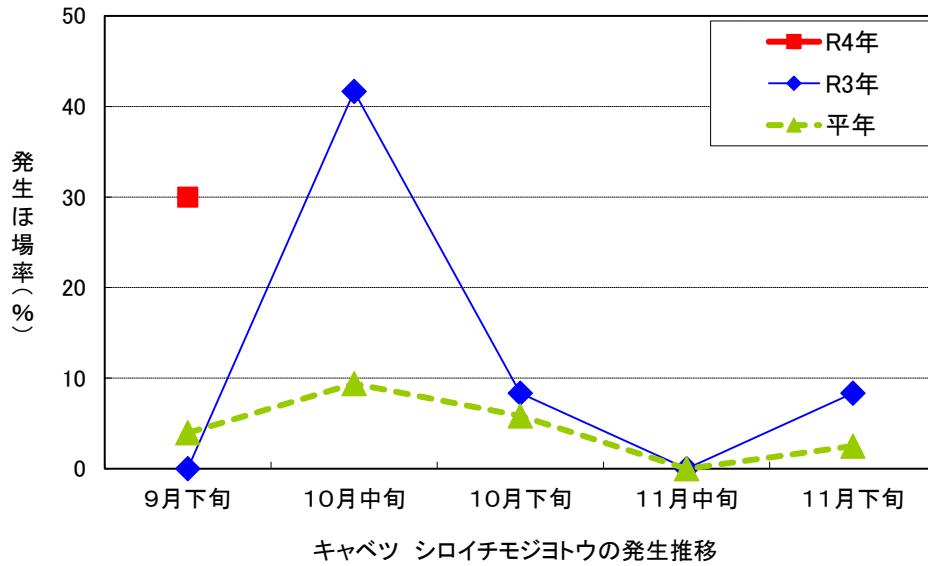
イ 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm 以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。

<防除のポイント>

ア 定期的にはほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。

イ 薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
キャベツ	ハイマダ ラノメイ ガ	平年並	平年並	前年並	0	0.8	
	ウワバ類	平年並	平年並	前年並	0	4.3	
	ヨトウガ	平年並	平年並	前年並	0	2.8	

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

(3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（9月29日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	20	30	50
降 水 量	20	40	40
日 照 時 間	40	40	20

週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	10	10	80
2 週 目	30	50	20
3～4 週 目	20	40	40